

事業群評価調書(令和4年度実施)

基本戦略名	1-1 若者の県内定着、地域で活躍する人材の育成を図る	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 高校教育課	田川 耕太郎
施策名	4 キャリア教育の推進と企業を支える人材の育成・確保	事業群関係課(室)	義務教育課、若者定着課	
事業群名	③ キャリア教育の推進	令和3年度事業費(千円)	※下記「2. 令和3年度取組実績」の事業費(R3実績)の合計額 80,494	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画テェンジ&チャレェンジ2025 本文)		(取組項目)								
子どもたちが社会や職業との関連を意識しながら主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、望ましい勤労観、職業観を育成していくことができるよう、発達段階に応じたキャリア教育・職業教育の充実を図ります。		i) 児童生徒の発達段階に応じた「夢・憧れ・志」を育む教育の推進 ii) インターンシップ活動等の体験的な学習活動の充実 iii) 地域の課題を解決する職業体験学習等により地域を担おうとする人材を育む教育を推進 iv) 大学卒業後の県内定着を支援するために進学希望者の多い普通科高校において県内企業説明会を実施 v) 県内企業やふるさと教育に対する教員の理解の深化								
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)	
	県内企業におけるインターンシップ体験が自らの職業観や勤労観について考えるうえで役に立ったと回答した高校生の割合	目標値①	/	98%以上	98%以上	98%以上	98%以上	98%以上		98%以上維持(R7)
		実績値②	97.8%(H26~30平均)	98.7%	/	/	/	/		進捗状況
達成率②/①		/	100%	/	/	/	/	順調		
令和2年度は、30校2,051人がインターンシップを実施したのに対し、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をしながら、41校2,200人が実施することができた。中には、受入企業と協議し、オンラインで実施したのもあった。 また、インターンシップ体験が自らの職業観や勤労観について考えるうえで役に立ったと回答した高校生は、令和2年度は96.2%だったものが、令和3年度は98.7%と上昇した。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が不透明ではあるが、企業と協議しながら実施を検討していきたい。										

2. 令和3年度取組実績(令和4年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名	事業費(単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和3年度事業の成果等	
				R2実績	R3実績	R4計画		うち一般財源	人件費(参考)	主な指標		R2目標
取組項目1	○	1	ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業	2,880	1,518	7,790	9市町11中学校を拠点校として指定し、学校と行政機関、市町まちづくり担当部局、地元企業等が協働しながら、地域の課題解決を目指し、地域の活性化につながる探究的な学習プログラムを開発し実践した。	【活動指標】	9	11	122%	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の成果 ・11校すべての指定中学校が公開授業を実施した。いずれの学校でも生徒・教員ともに地域の魅力や課題を見だし、解決を目指す探究的な学習プログラムの開発と実践に取り組んだことにより、生徒に、ふるさとに対する誇りや愛情をもたせることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・本事業を通して、ふるさとに対する愛情や誇りをもつとともに、地元企業や地域の人々に触れることができ、地域に根差した職業観や勤労観の育成に寄与している。
				3,269	1,798	7,681			9	/	/	
			—			【成果指標】		40	97	242%		
			R3-4	—	—			80	/	/		
			義務教育課	—	—	—	公立中学校の教員・生徒		80	/		

取組項目 ii	○	2	高校生のためのふるさと長崎就職応援事業	63,107	63,107	9,389	就職希望者が多い高校にキャリアサポートスタッフ(CSS)を配置し、生徒や保護者に対して県内企業の魅力と情報を提供するとともに、学校内での企業説明会、インターンシップの支援等を実施することで、県内企業への就職を支援した。	【活動指標】	3,600	1,162	32%	●事業の成果 ・CSSによる面談等をきめ細かに実施し、県内企業の情報提供や相談対応などに取り組んだ結果、公立高校生の県内就職割合は前年度を上回ることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・公立高校の県内就職率の向上により、県全体の県内就職率の目標達成に寄与した。	
				63,717	63,717	9,348		R2:県内企業への訪問回数(回)					
				69,274	69,274	9,217							
			H28-R7					【活動指標】		2.2			
若者定着課(高校教育課)	—	—	—	県立学校(高等学校・特別支援学校)の生徒	R3-:就職希望者数あたりの生徒面接指導回数(回/人)	1.8	2.2	122%					
						1.8							
					【成果指標】	63	67.5	107%					
					公立高校生の全就職者に対する県内就職者の割合(%)	65%以上を維持	69.9	100%					
						65%以上を維持							
取組項目 iii	○	3	キャリア教育・産業教育指導費	8,638	7,415	9,389	産業界の変化に対応できる人材の育成等を目指すため、企業・研究機関等から講師を招へいする産業エキスパートセミナーや、GAP教育に対する支援(農業)、現場研修やロボットコンクール等の技術・技能向上に対する支援(工業)、プレゼンテーション能力・課題解決能力向上に対する支援(商業)等を実施した。	【活動指標】	40	36	90%		●事業の成果 ・産業エキスパートセミナーで、「職業について考える機会になった」と答えた生徒の割合は95%と高かった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・社会や職業との関連を意識するきっかけとなっており、事業を通して生徒の職業観を醸成し、生徒の進路選択に寄与している。
				10,292	8,985	9,348		県立学校実施校数(校)	40	32	80%		
				14,223	12,355	8,449			40				
			—					【成果指標】	95	95	100%		
高校教育課	—	—	—	県立学校(高等学校・特別支援学校)の生徒	人生観・職業観の育成(%)	95	94.6	99%					
						95							
取組項目 iii v	○	4	長崎の未来を創る ワクワク産業教育実践事業	2,713	1,416	5,377	(1)先端企業教員研修事業 先端技術や独自の技術を持つ企業や研究機関等での教員研修を実施するための環境を整え、教員が企業等での研修で知り得た先端の産業の状況を踏まえた授業を構成し、実習指導を行うとともに、実際に企業等と関わりながら、充実した探究活動等の実践につなげる。 (2)AIC(農工商)連携ネットワーク構築事業 農業、工業、商業等の高校がこれまで自前で完結してきた教育の内容に、他の専門分野を融合させながら、協働型の探究学習を展開することで、生徒に対して、次代の産業へ柔軟に対応できるような幅広い知識・技術を習得させる。	【活動指標】				—	
								先端企業等への参加人数(人)	15				
			(R4補正)R4-6					【成果指標】					
			高校教育課	—	—	—		公立高等学校専門学科(農業、工業、商業、水産、情報、家庭、看護、福祉)の就職内定者に占める県内の割合(%)	59				
取組項目 iv v	○	5	長崎発 未来の創り手育成プラン	3,089	1,413	10,171	「地域魅力化型高等学校支援事業」では地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、「ふるさと教育支援事業」では進学希望者が多い普通科高校4校で県内企業説明会を行った。 また、令和3年度新規「ながさき未来デザインSDGs推進事業」の「長崎を元気にするアイデアコンテスト」では20校が活動、研究発表を行った。 さらに、「高校生アントレプレナーシップゼミ」では21名が7グループで活動を行い、起業家や行政関係者の支援を受けながらビジネスアイデアを構築し、発表会を実施した。	【活動指標】	—	—	—		●事業の成果 ・地元の行政機関や事業所などと連携し、地域活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの生徒達が、将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・各機関との連携の実績ができたことで、今後の連携がスムーズに行われ、また、参加校の教諭の指導スキルの向上も見込まれる。このことで、今後の他の取組への広がりや深まりが期待でき、社会に参画する力や課題解決に主体的に関わる資質・能力の育成につながっている。
				3,605	684	10,127		長崎を元気にするアイデアコンテストにおいて、活動した学校数(校)	20	20	100%		
				8,707	3,691	10,753			20				
			H30-R5					【成果指標】	—	—	—		
			高校教育課	—	—	—		アイデアコンテスト参加校において、地域課題を解決し、将来、ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)	85	100	117%		
									90				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i 児童生徒の発達段階に応じた「夢・憧れ・志」を育む教育の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 これまで拠点校全てにおいて、地元企業や行政機関と連携した研究が順調に進んでおり、公開授業の実施率も100%である。また、「ふるさとのためにできることを考える生徒の割合」は90.6%と高い割合にある。今後は、ふるさとの課題解決や魅力発信に焦点を当てた取組の充実を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を育むためのより効果的な手立ての検討が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 ふるさとの課題解決を目指した探究的な学習に、地域ぐるみで取り組むことで、子供たちに地域社会の一員としての自覚と、ふるさを担う実践力等を育む職業体験学習の取組を推進する。</p>
<p>ii インターンシップ活動等の体験的な学習活動の充実</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 インターンシップの取り組み状況は、令和2年度の30校2,051人に比べると令和3年度は41校2,200人と上昇した。しかし新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度は58校4,426人が実施していた。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が不透明ではあるが、感染症対策をしつつ、実施に向けた計画を受入企業と協議していく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 令和3年度、オンラインで実施していただいた企業もあったので、早めに企業と相談し、実施に向けた計画を行う。また、実施が不可能でもオンラインによる職場見学や意見交換会などを検討していく。</p>
<p>iii 地域の課題を解決する職業体験学習等により地域を担おうとする人材を育む教育を推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 デュアルシステム(実務・教育連結型人材育成システム)により、将来の地域振興を担う人材の育成や地域活性化に貢献することを目指しており、生徒の県内事業所への理解が深まる機会となった。また、県内内定生徒の企業訪問を実施することで、内定企業への就業前の不安を取り除くことができた。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 デュアルシステムや県内内定生徒の企業訪問は、インターンシップ以上の教育的効果が得られることから、今後も新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、可能な限りの実施を働きかける。</p>
<p>iv 大学卒業後の県内定着を支援するために進学希望者の多い普通科高校において県内企業説明会を実施</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 進学希望者の多い普通科高校4校で県内企業説明会を実施した。参加した生徒のうち97.2%が、地元企業の理念やそこで働く人の思いを知ること、自分自身の今後の生き方やキャリアについて考える機会となったと回答している。なお、課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインで参加した企業の説明ではやや伝わりにくかったことがあげられる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 可能な限り、思いや熱意が伝わりやすい対面での企業説明会を開催するが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンラインによる説明を行い、動画や職場中継など生徒の意識を高められるような工夫を行う。</p>
<p>v 県内企業やふるさと教育に対する教員の理解の深化</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 進学希望者の多い普通科高校4校で県内企業説明会に参加した教員のうち96.4%が、自分自身のキャリア教育(ふるさと教育)に対する理解が深まったと回答している。課題としては、他学年の授業等もあり参加する教員が限定されることがあげられる。なお、予定していた県内企業訪問(県内3地区)は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 企業説明会への部分参加を促すなど、1人でも多くの教員が参加できるような工夫を各学校の状況を踏まえながら行うよう依頼する。また、県内企業訪問については、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、できる限り開催できるように検討していく。</p>

4. 令和4年度見直し内容及び令和5年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名 事業期間 所管課(室)名	令和4年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和4年度の新たな取組は「R4新規」等と、見直しが無い場合は「—」と記載	令和5年度事業の実施に向けた方向性		
					事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目1	○	1	ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業 R3-4 義務教育課	令和4年度は、各指定校が「ふるさとキャリア教育」の研究拠点校として、他校に対してその実践を周知・発信することで、県下に普及させることを重点取組事項としている。	⑩	令和4年度で事業終了。	終了

取組項目 ii	○	2	<p>高校生のためのふるさと長崎就職応援事業</p> <p>H28-R7</p> <p>若者定着課 (高校教育課)</p>	<p>若者定着課及び高校教育課職員がキャリアサポートスタッフ配置校を定期的に訪問し、生徒の就職希望状況や求人状況等の聞き取りを行い、県内就職促進に向けての情報共有や指導助言を行っている。</p>	②	<p>キャリアサポートスタッフと県内就職推進員との連携会議をもとに、効果が上がった取り組みについて情報共有を行い、効率的で効果が高い支援を行う。また、県立学校においては若者定着課及び高校教育課職員がキャリアサポートスタッフ配置校を訪問し、適切な助言を行うとともに、現状を把握し、令和5年度の実施内容を検討する。</p>	改善
取組項目 iii	○	3	<p>キャリア教育・産業教育指導費</p> <p>—</p> <p>高校教育課</p>	<p>普通科と専門学科等を併設する学校等にあつては、人生の達人セミナー及び産業エキスパートセミナーの両セミナーを実施することも可能と明記し、より多くの学校が活用できるようにした。</p>	②	<p>専門高校における産業教育では、プロジェクト研修支援や各種教員研修等を通し、専門性の向上を図り、全国的にも高い成績を残すことができている。一方では、社会の急激な変化に対応するために教育課程の変化が生じている状態であることから、教員研修等の内容を見直す方向で改善を進める。</p> <p>また、人生の達人セミナーや産業エキスパートセミナーの実施においては、オンラインの積極的な活用を促し、未実施校がないよう各校に促す。</p>	改善
取組項目 iii v		4	<p>長崎の未来を創る ワクワク産業教育実践事業</p> <p>(R4補正)R4-6</p> <p>高校教育課</p>	R4補正	②	<p>「先端企業教員研修」については、各学校が教育内容として強化したい部分を戦略的に補強するための教員派遣となるよう、各学校とも確認しながらさらに推進したい。</p> <p>「AIC(農工商)連携ネットワーク構築事業」については、引き続き生徒が他分野の学習内容に触れ、魅力ある学習活動となるよう支援するとともに、学習内容の共有も推進する。</p>	改善
取組項目 iv v	○	5	<p>長崎発 未来の創り手育成プラン</p> <p>H30-R5</p> <p>高校教育課</p>	<p>「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、起業家を中心とした新規ビジネスプランの提案だけでなく、提案されたビジネスプランの実装に向けて企業や行政機関等と連携しながら取組を深化させていく。</p>	②	<p>「長崎を元気にするアイデアコンテスト」や「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、令和3年度、4年度の研究成果を県立高校全校に共有するとともに、未参加の学校の参加を促して地域課題解決型探究の手法や成果を広げていく。</p>	改善

注:「2. 令和3年度取組実績」に記載している事業のうち、令和3年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点